

なかまの大切さを確かめる日

ねらい

- 「なかまの大切さを確かめる日」を設け、毎月全校生徒に、なかまづくりや自尊感情、命の大切さ等に視点をあてた題材を放送し、それをもとに各学年で、その題材について話し合うことにより、自分たちの生活をふりかえる機会を持つ。

対象

- 全学年

指導計画

- 月のテーマに沿ったエピソードを、全校児童に放送を使って話をする。
- 放送でのエピソードを受けて、各学年で児童の実態に合わせた取組を行う。

展開例

1. 児童の実態や学校行事等をもとに年間計画を作成する。

実施月	月のテーマ
5月	『友だちとの出会い』 ～友だちのことをいっぱい知ろう～
6月	『みんなだいすき』 ～友だちのいいところみつけた～
7月	『自分ってなかなかいいね』 ～自分のいいところみつけた～
9月	『みとめ合えるってすてき』 ～がんばりをみとめあおう～
10月	『気持ちを伝えよう』 ～言われてうれしい言葉・言われていやな言葉～
11月	『なかまはずれや・いじめ・差別のおかしさを考えよう』
1月	『いのちかがやけ』 ～自分やまわりの人の命を大切にしよう～
2月	『1年間をふりかえろう』 ～すてきななかまができたよ～

2. 年間計画のテーマをもとに作成したエピソードを放送する。

○原稿例 6月のテーマ：『みんなだいすき』 ～友だちのいいところみつけた～

ねらい：自分のまわりにいる友だちのよいところを探すことで、より広く、より深いなかま関係づくりにつなげる。

みなさんおはようございます。6月の「なかまの大切さを確かめる日」がやってきました。先月の『友だちとの出会い』～友だちのことをいっぱい知ろう～では、友だちのことを知り、友だちとのちがいに気づき、ちがいを認め合うことの大切さについて考えました。

今月は、より深く友だちのことを見つめる機会になればいいなと思っています。

わたしたちの学校には、400人近いなかまがいますが、特に、同じ学級のなかまとは、いっしょに勉強したり、いっしょに給食を食べたり、いっしょにそうじをしたりしますね。でも、そんなクラスのなかまのことをどれだけ知っているのでしょうか。どれだけわかっているのでしょうか。

友だちが自分のことを知ってくれている、認めてくれていると思えた時に、安心して学校生活をおくることができるのです。私は子どもの頃、やんちゃであまりほめてもらった経験はなかったのですが、二年生の時、音楽の歌のテストで大きな声で歌を歌ったのを、同じクラスの子が「歌じょうずやね。」とほめてくれたことは、今でもおぼえています。自分のいいところやがんばりを見つけてくれて、それを口に出して言ってもらえるって、こんなに気持ちがいいものなのだと、はじめてわかりました。みなさんは、こんな経験はないですか。

逆に、友だちの良くないことばかりに目がいくと、ついついイライラして、友だちに悪口を言ってしまい、したくもないケンカをしてしまうということになってしまいます。

今月のテーマは「みんなだいすき ～友だちのいいところをみつけた～」です。友だちのいいところをしっかりと見つめる一ヶ月にしてください。

3. 学級での事後指導について

放送の後、各学年の発達段階や実態をもとに、自分や友だちのよさを見つけて、それを伝えあうような構成的グループエンカウンター等を事後学習として行う。

《1年生の展開》

学習内容	指導上の留意点
・放送の内容をふりかえる。	
・「なかま」教材のほめほめぶくろに、ほめられたエピソードを書く。	・自分が友だちや先生にほめられた時のことを、できるだけくわしく思い出させる。
・書いた内容とその時の気持ちを発表する。	・友だちの発表を聞き、自分の経験と重ねさせる。

教材

- 「ほめほめぶくろ」（『なかま しょうがっこうていがくねん』奈良県人権教育研究会編、11～12頁）
- 「ホットメッセージ 心ふれあって〇年〇組」（『エンカウンターで総合が変わる 小学校編』國分康孝編、図書文化、188～191頁）